

科目名	発達障害児心理学Ⅰ（知的障害者）					単位	2.0
担当教員	繁昌 成明						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	1419

●授業のテーマ

障害児の心理と治療教育に関する基礎的知識を学ぶ。

●到達目標

発達段階を基に障害の早期発見と早期療育システムを学び、発達障害児の心理と家族の思いも含めて考え、対応する基礎力を身につける。

●学習内容(授業概要)

障害児心理学は、医療、教育、福祉など多くの領域と密接に関連した科目です。障害の分類については、知的障害、身体障害、情緒面での問題などと絡み合って現時点では明確な区分が出来ていない状況です。

ここでは発達障害という枠の中で障害をとらえ、まず乳幼児期からの発達過程を概観し、そこから障害の発生・発達変化・発達上の問題をとらえていきます。

現在は障害児の早期発見・早期療育がうたわれ、ノーマライゼーションの理念も知られていますが、発達障害はその原因が不明なものが多く、将来への不安が子供の発達のごく初期から生じてしまうことから、長期に継続した治療教育が必要となります。従って講義では、単なる知識としてだけでなく、実際の療育活動からの事例を交えながら諸君の感性に訴えていきます。常に感じ・考え受けとめながら私のいう“心理療育”のこころと自己表現も学んで欲しいと思います。

●学習内容(授業計画)

1. 発達段階について
2. 言葉の発達について
3. 障害の早期発見・早期治療
4. 診断と評価（乳幼児の発達相談・健診システム）について
5. 障害の分類について
6. 障害児の病理
7. 療育について
8. 自閉症について
9. 学習障害について
10. 言語障害について
11. てんかんについて
12. 治療教育の方法
13. 症例検討
14. 療育システムについて
15. 一貫して療育を継続することの重要性

講義中の様々な事例も単なる講義形式の枠をこえて、自分でも考えていくこと

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回の授業ごとに、関心のある事項について下調べをすること。

事後：毎回の授業で学習したキーワードを書き出しておく。

●成績評価方法・基準

前期学期末試験の成績 8 割、ボランティア等の活動実践の取り組みなど 2 割

●テキスト（必携）

随時コピーを頒布する

●参考文献／その他

随時紹介する

基礎として、発達心理学・臨床心理学・乳幼児保健等の関連科目の履修が可能な範囲で必要である。

●履修上の注意

特になし